
第 51 回国際資本市場協会 (ICMA) 年次総会・コンファレンスの模様について

2019 年 5 月 15 日～5 月 17 日

国際資本市場協会 (ICMA) ¹の第 51 回年次総会・コンファレンスが、去る 5 月 15 日～5 月 17 日にスウェーデン スtockホルムにおいて開催された。

会議の概要は、以下のとおり。

開催期間 2019 年 5 月 15 日 (水) ～5 月 17 日 (金)

開催場所 スウェーデン スtockホルム

参加者 ICMA メンバー他 約 950 名 (登録ベース)

会議のポイント

- 今年のコンファレンスでは、欧州の金融市場における重要な課題として、3つのテーマ (①市場/規制の分断、②技術革新、③持続可能性) が取り上げられた。①では、Brexit を含む市場に影響を及ぼす地政学的リスクやベンチマーク規制 (リスクフリー・レートへの移行) 等についても議論が行われた。(議論の概要、プログラムは次頁以降参照)。
- 本協会は協賛団体として参加し、資料の配布や展示ブース等を通じて日本市場の PR を行った。
- 次回会合は、2020 年 6 月 24～26 日にオーストリアのウィーンで開催することがアナウンスされた。



コンファレンスでの議論の主なポイント

5月16日 (木)

開会挨拶

Mandy DeFilippo, Chair, ICMA (Managing Director,
Morgan Stanley)

- Brexit による不透明性、その他の地政学的リスク、ポピュリズムが広がる中で ICMA の主たる関心は、引き続き、債券の発行市場・流通市場、レポ市場、ESG 投資における効率性と公正性の維持・向上である。
- 現在直面している課題は、市場/規制の分断 (欧州では特に Brexit への対処)、債券市場における技術革新の活用である。市場/規制の分断は G20 サミットのアジェンダにも上って

¹ ICMA は欧州を中心に世界約 60 カ国 500 の金融機関が加盟する国際団体。本拠地はチューリヒ及びロンドン。本協会との間で 2008 年 1 月、相互協力に関する覚書 (MoU) を締結し、2008 年、2013 年、2015 年、2017 年及び 2019 年に日本証券サミット (いずれもロンドンで開催) を共催した。

おり、60 か国を超える ICMA メンバー全てが影響を受けることから、今後も注視していく。

- 持続可能性や多様性の拡充は業界の新たな課題であり、ICMA では Women's Network、Young Leaders Group といった枠組みを通じて、女性や若い世代の活躍促進に取り組んでいる。

基調講演：Payment market in transition and challenges to the Riksbank operational framework (移行期の決済市場とリクスバンクの事業枠組の挑戦)

Stefan Ingves, Governor and Chairman of the Executive Board, Sveriges Riksbank

- 物価安定と安全・効率的な決済システム維持が中央銀行の中心的な役割であるが、金融政策を運用していく枠組みは過去一定ではなく、市場に合わせて約 30 年毎に変化してきた。今後も新技術の導入に対応し、変化・効率化させていく必要がある。
- 将来は中央銀行が発行するデジタル通貨や、デジタル化による迅速な決済手段が導入され、堅固かつ透明で自動化された日々の決済が可能になるだろう。これに関連して、スウェーデンでは次期決済システムの提案に関する市中協議を行う予定である。
- LIBOR に代わる、取引の実態を踏まえた翌日金利(指標)の算出は引き続き必要である。
- 将来の金融政策のオペレーションには 24 時間監視が可能なシステムが必要であり、取引参加者からのタイムリーな取引情報の提供が欠かせない。

パネル：The global markets in today's geopolitical and regulatory landscape: a forum of industry leaders (今日の地政学・規制情勢の中のグローバル市場：業界リーダーのフォーラム)

司会：

Mandy DeFilippo, Managing Director, Global Head of Risk Management for Fixed Income & Commodities, Morgan Stanley and Chair, ICMA

パネリスト：

Leonardo Arduini, Head of EMEA Markets & Securities Services, Citigroup

Andy Cairns, Senior Managing Director, Head of Global Corporate Finance, First Abu Dhabi Bank

Jakob Groot, Member of the Executive Board, Head of Corporates & Institutions, Danske Bank and Member of the Board, ICMA

Isabelle Mateos y Lago, Managing Director and Deputy Head of Official Institutions Group, BlackRock

Henrik Normann, President and Chief Executive Officer, Nordic Investment Bank

Per-Åke Nyberg, Global Head of Investment Banking, Swedbank

- Brexit の行方は依然不透明であり、欧州市場には深刻な影響を与える可能性がある。イタリアの選挙をはじめ欧州内の政治情勢も不安定要因である。米中の貿易摩擦は関税等の形で既存のサプライチェーンに深刻な影響を与え得る。一方で、原油価格、湾岸地域のソブリン債価格の変動は比較的説明可能な範囲に留まっている。
- 地政学的な不透明性によるリスクプレミアムは、個別の情勢が収束すれば解消されると考

えられるが、不安定要因を抱える地域への投資判断は慎重なものにならざるを得ない。

- 様々な不安定要因の中で、欧州中央銀行の金融政策は市場の安定に寄与している。
- G20 サミットで市場／規制の分断が取り上げられることを歓迎する。FSB もクロスボーダー規制の影響と調和について提言しているが、TLAC（総損失吸収力）規制やレポ市場における担保の標準化等の市場へのインパクトは引続き注視していく必要がある。
- 欧州域内では資本市場同盟、銀行同盟が進展すれば、統合的な規制に寄与することが期待できる。
- Brexit、MiFID II、リスクフリーレートへの移行等の業界への影響を、規制当局が完全にフォローすることは困難であり、ICMA のような業界団体が注視し、積極的に所見を発信していくべきである。

基調講演：Greening the financial system（金融システムのグリーン化）

Aerdt Houben, Director, Financial Markets, De Nederlandsche Bank N.V.

- 気候変動は、金融機関／市場にとって大きなリスクであるとともに機会でもある。EU 全体では、依然エネルギー利用の 80%を化石燃料が占めており、再生可能エネルギーは 15%に過ぎない。CO2 排出量を EU 全体で 2050 年までに 64%減少させることを目指しており、それには 13 兆ユーロの投資が必要とされる。
- エネルギーの移行を市場メカニズムに組み込むには外部性（externality）特に CO2 排出を適切に価格設定し、エネルギー集約産業のコストを増加させることが重要である。これには国を超えて地域で、あるいはグローバルに調和された方法で取り組むとより効果的である。
- オランダ中央銀行は ESG の要素を銀行監視、マクロprudential規制、ストレステスト等に取り入れているほか、内部のビジネスポリシーにも反映している。これは国連のグローバルコンパクトに沿った内容であり、外部の専門家を招いて取り組んでいる。また、サステナビリティ報告書を公表し、3 カ月前には PRI(責任投資原則)に署名した。いずれも中央銀行として初めての取り組みである。監視対象である銀行には気候リスク低減に関する開示を求めている。
- 当初中央銀行 8 行でスタートした NGFS（Network for Greening the Financial System: 気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク）は、現在 34 か国の中央銀行とオブザーバーがネットワークに参加し、メインストリームになりつつある。NGFS の主な取組みは、堅固で国際的に統合的な気候変動・環境関連情報の開示とタクソノミーの整備である。
- 通常の債券に加え、グリーン／ソーシャル／サステナビリティ債の発行が急速に拡大している一方、省エネルギーのビジネスに資金が向かっている。市場の透明性と信頼性を向上させるために、タクソノミー、グリーンボンド原則、低炭素投資戦略のベンチマーク、気候変動関連の開示基準、気候変動 ESG スコア等の精緻化に加え、投資家に包括的な情報を開示する目論見書の充実が求められている。

パネル：Sustainable debt markets – going mainstream

(サステナブルな債券市場 - メインストリームへ)

司会：

Lars Eibeholm, Vice President, Head of Treasury, Nordic Investment Bank and Chair, Green Bond Principles and Social Bond Principles Executive Committee

パネリスト：

Alban de Faÿ, Head of SRI Fixed Income Processes, Amundi

Aerdt Houben, Director, Financial Markets, De Nederlandsche Bank N.V.

Ulrika Lindén, Head of Fixed Income, Swedbank Robur

Mats Olausson, Senior Advisor, Climate & Sustainable Finance, Skandinaviska Enskilda Banken

Chrissa Pagitsas, Vice President, Enterprise ESG Strategy, Fannie Mae

Ignacio Vicente, Chief Financial Officer, Instituto de Crédito Oficial

- サステナブル・ファイナンスに関し、投資家は、リスクだけでなく、その投資判断が環境に与える影響を考える必要がある。投資家による明確かつ比較可能な評価を可能にするため、発行体は標準化された用語を使って、プロジェクトの目的・内容・価値を説明することが求められる。
- 多くの発行体がグリーンボンドと通常債(ブラウンボンド)を発行しており、同じ格付けを得ている。グリーン経済への移行にあまり関心がない投資家は、グリーン性よりも格付けあるいは利回りを重視して投資する傾向がある。
- 企業が初めてグリーン/ソーシャルボンドを発行する場合、たとえグリーン性が低くても、投資家との対話を通じて持続可能な経済への移行への必要性をより深く認識し、発行体企業のキャパシティ・ビルディングにも資する。
- 環境格付機関の評価方法には更に改善の余地がある。プロジェクトの客観的・比較可能な評価を提供するとともに、プロジェクトのガバナンスに関する評価も組み込むことが望まれる。
- タクソノミーの整備をはじめとする標準化の動きには是非がある。投資家による客観的な比較が可能となる反面、過度に厳格な標準化は対象プロジェクトを狭めてしまい、これら債券が社会にもたらすグリーン/ソーシャルなベネフィットを抑制してしまう恐れもある。
- 多様な社会を前提にすると、単一のグローバルなタクソノミーを定めるアプローチには疑問がある。

基調講演：Transitions and challenges for European securities markets and their regulators

(ヨーロッパ証券市場と監督当局の変化と課題)

Verena Ross, Executive Director, European Securities and Markets Authority (ESMA)

- ESMA は、2021年12月までに、広範な金融商品において環境の持続可能性に関する新たな二つのベンチマークを導入する。二酸化炭素排出量を参照する低炭素ベンチマークは既

に存在しているが、EU 気候ベンチマークと、産業革命以前の二酸化炭素排出量とリンクする EU-パリ協定ベンチマークを新たに導入する。これらについて、現在業界の専門家グループにメソドロジーと評価システムを諮問している。

- EU では、LIBOR に代わる新しいベンチマークを 2020 年から導入する予定であるが、欧州では critical benchmark である EURIBOR の継続性を確保するとともに、EONIA（ユーロ圏無担保翌日物平均金利）に代わる指標の導入が急務である。EONIA に代わる短期金利指標として€STR（ユーロ圏短期レート）を 2019 年 10 月に算出開始する予定であり、ワーキンググループでは市場参加者を対象に法令、会計、オペレーション上の影響調査を行っている。
- Brexit に関わらず、英国と EU は密接に結びついているが、Brexit 後は英国金融当局が EU 各国の当局と協定を結ばない限り、英国の金融機関は EU 内でこれまでと同様の業務は行えない。ESMA としては、円滑な移行に向けたフレームワークを設けたいが、no-deal Brexit のリスクも消えておらず、英国・EU 間で CCP/CSD へのアクセスが制限される可能性もあり、これに対する備えも必要と考えている。
- MiFID II への移行は株式及び株式以外の市場双方で順調に進んでいると考えているが、その影響について、現在 ESMA が第 1 次調査を進めている。特にデータの標準化のインパクトと投資者保護の効果について重点的に評価を行う方針である。

パネル：10 years after the crisis – is the international securities market in better shape?

(危機から 10 年 - 国際証券市場は良くなったか?)

司会：

Katie Martin, Capital Markets Editor, Financial Times

パネリスト：

Alexi Chan, Global Co-Head, Capital Markets, HSBC

Frank Czichowski, Senior Vice President & Treasurer, KfW

Sébastien Domanico, Global Head of Debt Capital Markets, Crédit Agricole Corporate and Investment Bank

Roman Schmidt, Divisional Board Member Capital Markets, Commerzbank AG

Hans Stoter, Global Head of Core Investments, AXA Investment Managers

- 2008 年の金融危機以降、多くの規制が導入され、複雑性も増した。大量の規制とともに、中央銀行が市場に与える影響が著しく増大した。
- 透明性の向上を通じて、取引参加者は以前より洗練された反面、ネガティブ金利下で、安全性への逃避も生じている。一方で透明性自体が目的化している懸念もある。透明性はそれ自体が目標ではなく、公平・公正な市場の実現のためのツールと考えるべきである。
- 金融危機が発生するまで、債券を含む様々な組成商品に関する情報は不透明な部分が多かった。現在改善された部分もあるが、依然として各種の情報が公表されることなく、銀行

間でのみ共有されている。この点はよりコントロールされるべきではないか。

- 報酬制度や金融機関役職員の行為は、規制とインセンティブ構造の変化の両面を通じて変化してきた。しかし、望ましいレベルに到達するには更に 10 年を要するのではないか。一方で、ミレニアル世代への交代が行為の変化を促すことも考えられる。
- 危機の後、多くの金融機関が企業文化の改善や報酬制度の適正化に取り組んできたが、不祥事の報道がなされると、多くの努力や取組みが帳消しになり、金融機関性悪説に戻ってしまう。
- リスクやバブルを予見することは難しい。中央銀行の QE が続く中で、バブルの懸念はある。

基調講演：Future of sustainable financing for Telia as a New Generation Telco

(新世代通信会社 Telia にとってのサステナブル・ファイナンスの未来)

Christian Luiga, EVP and Group CFO, Telia Company

- スウェーデンで携帯電話サービスを提供する Telia 社の CEO が自社の持続可能性への取組みについて紹介した。
- デジタル化は、生産性の向上ひいては持続可能性の向上につながる。持続可能性を推進する企業は、デジタル化に積極的に取り組み、それに沿った人材を雇用すべきである。
- デジタル化がもたらす業務の効率化には大きな可能性がある。ヘルスケア分野では GPS 等を用いて多様な情報を集め、きめ細かなサービスが提供されつつある。
- Telia では、持続可能性の向上に向け様々な取組みを進め、それらを公表してきたが、直近では、2030 年までに CO2 ニュートラルを達成する等の”Sustainability Agenda”を策定し、従業員アクションプランを作成した。
- 資金調達面でも持続可能性に対する考慮を反映し、Telia が発行する債券は全てグリーンボンドである。
- 社内で持続可能性を直接担当している人数は約 2 万人の全従業員中 30 名程度だが、外部の専門家を含めて多くの機関と協力している。

5月17日(金)

基調講演：Europe’s Capital Markets Union: stocktaking and future prospects

(欧州資本市場同盟：評価と将来展望)

John Berrigan, Deputy Director-General, Financial Stability, Financial Services and Capital Markets Union, European Commission

- 次期欧州委員会の優先課題には、銀行同盟と資本市場同盟の完成が含まれる。
- 銀行同盟は単一監視メカニズム、単一清算メカニズムと単一清算基金、そして最後のピースが共通のバックストップとしての預金保険機構である。このバックストップは欧州安定メカニズムの資金によりサポートされる。

- 資本市場同盟の本格稼働により、欧州内の資金、リスクマネーの合理的・効率的な配分を促す、柔軟で迅速な資金調達システムが設けられる。このフレームワークにより、外的ショックに対する欧州経済の頑健性がより強化される。
- EU の金融取引に占める英国の割合は 70% に上る。Brexit 後も、EU と英国の間では、新しい長期的相互依存の関係が生じる。
- 英国の EU 離脱期限の延期はクリフエッジ・リスクを低減しない。依然として no-deal Brexit の可能性は残っており、コンティンジェンシー・プランを各方面で準備している。

パネル：Collateral damage? Opportunities and risks for the repo market in today's collateralized financial market system

(コラテラルダメージ? 今日の担保金融市場システムにおけるレポ市場の機会とリスク)

司会：

Godfried De Vidts, Senior Advisor, ICMA

パネリスト：

John Berrigan, Deputy Director-General, Financial Stability, Financial Services and Capital Markets Union, European Commission

Andreas Biewald, Head of Short Term Funding, Commerzbank AG

Richard Comotto, Senior Consultant, ICMA

Richard Hochreutiner, Head of Global Collateral, Swiss Reinsurance Company Ltd

Grigorios Markouizos, Global Head of Fixed Income, Finance and Collateral Management, Citigroup

Per Sjoberg, Non-Executive Director, TriOptima and AcadiaSoft

- 金融危機後の規制改革、清算機関の整備、MiFID II の導入等及び市場環境の変化もあり、2016 年以降欧州ではレポ取引が増大している。担保を要する取引が増加する一方、証拠金より証券担保が好まれる傾向があり、適格担保となる証券の不足が顕在化している。
- 金融危機後の規制改革の影響として、銀行セクターが ECB の貸付プログラムに依存し、レポ市場の流動性が低下している。
- CCP の整備は、破綻リスクを清算機関に集中させた。これはリスクが社会化されたと言える。
- 欧州債務危機と ECB の金融政策がレポ取引の増加の背景にあるが、CSDR（証券集中保管に関する規則）等により取引情報を当局に報告するシステムは、監視当局のリソース不足のため十分に機能していない。
- レポ市場のデジタル化、自動化も大きな課題である。CCP の自動化、担保トークンの導入、標準化商品の自動決済等により効率化が期待される。ECB によるユーロ債の中央決済システムの構築も進める必要がある。

パネル：Transition to risk free rates: the challenges for market participants

(リスクフリーレートへの移行：市場参加者の課題)

司会：

Paul Richards, Head of Market Practice and Regulatory Policy, ICMA

パネリスト：

Roman Baumann, Head of Money Market, Swiss National Bank

Cornelia Holthausen, Deputy Director General, Directorate General Market Operations, European Central Bank

Harriet Hunnab, Manager, Benchmarks Policy, Financial Conduct Authority

Matthew Lieber, Director of Capital Markets and Institutions, Markets Group, Federal Reserve Bank of New York

- LIBOR の運営が少数の金融機関の一部の専門家に限定されていたことが不正操作を招いた背景にある。
- 2017年7月、英国FCAは2021年末以降LIBORをサポートしない旨を公表した。各国で代替となるリスクフリーレートの導入に向けた検討が進んでいる。
- 英国内ではLIBORに代わる指標が導入されつつある。既存のSONIAをスワップ市場で使う動きがあり、現物市場にも波及しつつある。ABSにも導入する動きがある。貸し手、借り手双方がこの動きにモメンタムを与えている。
- 米NY連銀では代替レートとなるIOSCO原則準拠のSOFRの流動性向上とLIBORが利用できなくなった際の危機管理計画の策定を進めている。SOFRは翌日オーバーナイトの現金・米国債貸付に導入された。SOFRのスワップ市場、現物市場への導入も進みつつある。LIBOR準拠の契約のフォールバックも検討されている。
- 欧州では、2年後に利用できなくなるEONIAに代わる短期金利指標として€STRの整備・導入を進めており、10月2日に内容を公表する予定。ECBの担当チームは今週移行に向けたアクションプランを公表した。
- スイスでは、リスクフリーレートSARONへの移行作業を進めているが、検討チームは堅固なデリバティブタームレートの構築は困難との結論に至った。このため、この分野ではキャッシュのレートを参照するアプローチを検討している。
- 市場参加者には一刻も早く代替指標を導入し、2021年を待たずにテスト・検証を行うことを薦める。

基調講演：Financial Markets Engineering with Blockchain

(ブロックチェーンによる金融市場のエンジニアリング)

Professor Roman Beck, Head of European Blockchain Center, IT University of Copenhagen

- EUの取引標準化の動きの中で、EU加盟国+数カ国によりブロックチェーンを使ったシステムの研究を行っている。

- 近年相当程度の流動性が代替決済手段によりもたらされている。デジタル通貨の実態は、通貨の所有者が変わっても保存場所は変わらない古代の巨大な石の通貨のイメージに近い。
- 新しい通貨、新しい決済手段が生まれる中で、中央銀行は重要なプレイヤーとなっている。昨年 8 月、欧州中央銀行はユーロのデジタル通貨を用いたキャッシュ以外の決済システムに言及している。中国人民銀行は電子決済に関する最多の特許を保有しており、中央銀行発行のデジタル通貨に備えて投資を行い、これを避けがたい未来としている。
- 昨年ベルリンで開催された E-invoice (電子請求書) サミットでは、蓄積された請求書を DLT を用いて会計処理・清算する可能性が示された。カナダの中央銀行はプロセスのブロックチェーン化を検討しており、変革をもたらす可能性がある分野には金融サービスが含まれる。
- 欧州の主要中央銀行は過去 10 年にわたり金融商品情報、参照情報、GLEI (取引主体識別子)、予想キャッシュフロー等の情報を収集する努力をしてきたが、関連情報を標準化することで、中央銀行が管理するデータベースを市場参加者が共有し更新しながら取引が行われる未来を検討しており、主要中央銀行が出資してデータ会社を設立した。

パネル : AI, Fintech and the future of fixed income issuance and trading

(AI、フィンテック、債券発行と取引の未来)

司会 :

Jean-Marc Mercier, Global Co-Head of Debt Capital Markets, HSBC Bank plc and Deputy Chair, ICMA

パネリスト :

Santiago Braje, Global Head of Credit Trading, ING

Scott Farrell, Partner, King & Wood Mallesons

Duncan Phillips, Managing Director and Global Head of Capital Markets, IHS Markit

Avtar Sehra, Chief Executive Officer, Nivaura

Andrei Serjantov, Global Head of Electronic Primary and Credit Markets, BNP Paribas

- 債券市場ではバイサイド、セルサイドとも更に自動化が予想され、2 者間の取引に限らずバスケット型の取引が増加すると見込まれる。
- 物理学者の観点から見ると、AI の「軍拡競争」は現在機械学習 (Machine Learning) と深層学習 (Deep Learning) の分野で進んでいるが、まだインプットを変えたらアウトプットがどう変わるかという次元で知能と呼べるレベルではない。その意味で、シンギュラリティはまだ遠い先にあると言える。AI の導入に関しては、最終的に説明責任 (問題が起きたときの責任) を誰が負うかが問題となる。プロセスのマネジメントと法的責任、人間の関与をいかに組み込むかが課題。
- 法律家の立場からは、スマートコントラクトが合理的で誠実であることを求める。この観点から人間の関与をプロセスから取り除くことには懐疑的。

- 債券市場では、流通市場の方が標準化しやすく、AIの導入が早いと予想される。AIの機械学習はデータが rows and columns（行列：Excel関数の比喩）の形に整理されて初めて力を発揮する。発行市場では既存データの不足と整理されない事項が多いため、導入に向けた要素の整理が今後5 - 10年かけて行われるだろう。
- 各金融機関は Fintech 活用の戦略を深化させる必要があるが、顧客の利益に適う形で実現しなければ、発行体と投資家が直接対話し、金融業界以外から来たプレーヤーが（仲介業者を介さない）より効率的な新しいシステムを導入してしまうかも知れない。
- ICMA は国際資本市場のスタンダードセッターとして、技術、ビジネス、業界、法令、規制等の異なる discipline を結びつける役割を期待されている。

基調講演：The European Union in the New World Disorder（新世界無秩序における欧州連合）

Alexander Stubb, Vice President, European Investment Bank and Former Prime Minister & Finance Minister of Finland

- 現在世界で起きていることを解き明かすため、鍵となる年が3つある。すなわち、
 - 1945年：ブレトン・ウッズ体制と米ソ間冷戦の始まり
 - 1989年：冷戦の終わり、米国一極体制の始まり、グローバリゼーションと民主国家の増加
 - 2016年：Brexit とトランプ大統領誕生に象徴される、アングロ・サクソンの民主主義の後退、多国的国際機関の力の低下、米国・中国・欧州の3極による地政学的競合
- 2016年以降、価値観、貿易、多国間協調の3つの分野で空白状態が生じている。
- 自由、基本的人権、法の支配という西洋的な基本的価値観が揺らいでいる。AIとロボタイゼーションが進む中で、経済の在り方が変わり、政治もコミュニケーションも変わりつつある。科学は人間の在り方さえ変えるだろう。基本的価値観が問われる中で、欧州はリーダーシップを取るべきである。
- WTOによる多国間貿易秩序が構築されつつあったが、最近はむしろ後退している。米国の貿易相手国としての信頼性が不透明になる中で、欧州は日本・中国・カナダ等との貿易関係を強化していくべきである。
- 欧州は多国間協調主義を推進すべきである。米国のリーダーシップの穴を、多国間での意思決定の方法を知っている欧州が埋めるべきである。
- 欧州は、AIのグローバルスタンダードの設定、気候変動への対応、多国的国際機関における欧州の結束に注力しながら、効果的効率的な規制の実施、米国・中国との対話を進める必要がある。

以上

国際資本市場協会 (ICMA) 第 51 回年次総会・コンファレンス プログラム
(2019 年 5 月 15 日 (水) ~ 5 月 17 日 (金))

5 月 16 日 (木)

12:30 開会挨拶

Mandy DeFilippo, Chair, ICMA (Managing Director, Morgan Stanley)

12:45 基調講演 : **Payment market in transition and challenges to the Riksbank operational framework**
(移行期の決済市場とリクスバンクの事業枠組の挑戦)

Stefan Ingves, Governor and Chairman of the Executive Board, Sveriges Riksbank

13:00 パネル : **The global markets in today's geopolitical and regulatory landscape: a forum of industry leaders** (今日の地政学・規制情勢の中のグローバル市場 : 業界リーダーのフォーラム)

司会 :

Mandy DeFilippo, Managing Director, Global Head of Risk Management for Fixed Income & Commodities,
Morgan Stanley and Chair, ICMA

パネリスト :

Leonardo Arduini, Head of EMEA Markets & Securities Services, Citigroup

Andy Cairns, Senior Managing Director, Head of Global Corporate Finance, First Abu Dhabi Bank

Jakob Groot, Member of the Executive Board, Head of Corporates & Institutions, Danske Bank and
Member of the Board, ICMA

Isabelle Mateos y Lago, Managing Director and Deputy Head of Official Institutions Group, BlackRock

Henrik Normann, President and Chief Executive Officer, Nordic Investment Bank

Per-Åke Nyberg, Global Head of Investment Banking, Swedbank

14:20 基調講演 : **Greening the financial system** (金融システムのグリーン化)

Aerdt Houben, Director, Financial Markets, De Nederlandsche Bank N.V.

14:40 パネル : **Sustainable debt markets – going mainstream**

(サステナブルな債券市場 - メインストリームへ)

司会 :

Lars Eibeholm, Vice President, Head of Treasury, Nordic Investment Bank and Chair, Green Bond
Principles and Social Bond Principles Executive Committee

パネリスト :

Alban de Faÿ, Head of SRI Fixed Income Processes, Amundi

Aerdt Houben, Director, Financial Markets, De Nederlandsche Bank N.V.

Ulrika Lindén, Head of Fixed Income, Swedbank Robur

Mats Olausson, Senior Advisor, Climate & Sustainable Finance, Skandinaviska Enskilda Banken

Chrissa Pagitsas, Vice President, Enterprise ESG Strategy, Fannie Mae

Ignacio Vicente, Chief Financial Officer, Instituto de Crédito Oficial

16:00 基調講演：Transitions and challenges for European securities markets and their regulators
(ヨーロッパ証券市場と監督当局の変化と課題)

Verena Ross, Executive Director, European Securities and Markets Authority (ESMA)

16:15 パネル：10 years after the crisis – is the international securities market in better shape?
(危機から10年 - 国際証券市場は良くなったか?)

司会：

Katie Martin, Capital Markets Editor, Financial Times

パネリスト：

Alexi Chan, Global Co-Head, Capital Markets, HSBC

Frank Czichowski, Senior Vice President & Treasurer, KfW

Sébastien Domanico, Global Head of Debt Capital Markets, Crédit Agricole Corporate and Investment Bank

Roman Schmidt, Divisional Board Member Capital Markets, Commerzbank AG

Hans Stoter, Global Head of Core Investments, AXA Investment Managers

17:15 基調講演：Future of sustainable financing for Telia as a New Generation Telco
(新世代通信会社 Telia のサステナブル・ファイナンスの未来)

Christian Luiga, EVP and Group CFO, Telia Company

5月17日(金)

09:20 基調講演：Europe's Capital Markets Union: stocktaking and future prospects
(欧州資本市場同盟：評価と将来展望)

John Berrigan, Deputy Director-General, Financial Stability, Financial Services and Capital Markets Union,
European Commission

09:35 パネル：Collateral damage? Opportunities and risks for the repo market in today's collateralized financial market system

(コラテラルダメージ? 今日の担保金融市場システムとレポ市場の機会とリスク)

司会：

Godfried De Vidts, Senior Advisor, ICMA

パネリスト：

John Berrigan, Deputy Director-General, Financial Stability, Financial Services and Capital Markets Union,
European Commission

Andreas Biewald, Head of Short Term Funding, Commerzbank AG

Richard Comotto, Senior Consultant, ICMA

Richard Hochreutiner, Head of Global Collateral, Swiss Reinsurance Company Ltd

Grigorios Markouizos, Global Head of Fixed Income, Finance and Collateral Management, Citigroup

Per Sjoberg, Non-Executive Director, TriOptima and AcadiaSoft

10:25 パネル：Transition to risk free rates: the challenges for market participants

(リスクフリーレートへの移行：市場参加者の課題)

司会：

Paul Richards, Head of Market Practice and Regulatory Policy, ICMA

パネリスト：

Roman Baumann, Head of Money Market, Swiss National Bank

Cornelia Holthausen, Deputy Director General, Directorate General Market Operations, European Central Bank

Harriet Hunnab, Manager, Benchmarks Policy, Financial Conduct Authority

Matthew Lieber, Director of Capital Markets and Institutions, Markets Group, Federal Reserve Bank of New York

11:45 基調講演：Financial Markets Engineering with Blockchain

(ブロックチェーンによる金融市場のエンジニアリング)

Professor Roman Beck, Head of European Blockchain Center, IT University of Copenhagen

12:05 パネル：AI, Fintech and the future of fixed income issuance and trading

(AI、フィンテック、債券発行と取引の未来)

司会：

Jean-Marc Mercier, Global Co-Head of Debt Capital Markets, HSBC Bank plc and Deputy Chair, ICMA

パネリスト：

Santiago Braje, Global Head of Credit Trading, ING

Scott Farrell, Partner, King & Wood Mallesons

Duncan Phillips, Managing Director and Global Head of Capital Markets, IHS Markit

Avtar Sehra, Chief Executive Officer, Nivaura

Andrei Serjantov, Global Head of Electronic Primary and Credit Markets, BNP Paribas

12:55 基調講演：The European Union in the New World Disorder (新世界無秩序における欧州連合)

Alexander Stubb, Vice President, European Investment Bank and Former Prime Minister & Finance Minister of Finland

スマートフォンアプリ掲載広告・展示エリアの様様

スマートフォンアプリ掲載広告



展示エリアの様様

